

珠洲・金沢直行 北陸初*の相乗りタクシーが運行開始

株式会社恋路観光バス（本社：石川県鳳珠郡能登町、代表取締役 井口信二）のグループ企業であるスズ交通株式会社（所在地：石川県珠洲市、代表取締役 井口信二）が 2026 年 9 月 30 日（水曜）より珠洲市中心部と金沢駅を往来する長距離相乗りタクシーの運行を開始しました。国土交通省 北陸信越運輸局への報告状況に基づくと、石川県、富山県、福井県の北陸 3 県では初の相乗りタクシーとなる。能登半島の先端に位置する珠洲と金沢の間を乗り継ぎなしに直行でき、自動車交通が主である奥能登地域に、新たな公共交通の選択肢が加わることになる。



※タクシーイラストはイメージです。

運行は 1 日 1 往復を基本とし、珠洲市・すずなり館を午前 5 時 30 分、金沢駅西口タクシー乗場を午前 9 時に出発する。完全予約制で、ホームページ経由の予約を基本とし、ホームページへアクセスできない利用者には電話予約も可とする。珠洲⇄金沢間の所要時間はトイレ休憩を含めて片道 3 時間で、途中、金沢医科大学病院（所在地：石川県河北郡内灘町）での乗降車も可能である。料金は、スズ交通株式会社が届け出た特定大型車の時間制運賃 6,250 円／30 分に基づき、片道 37,500 円を乗車人数により按分する「割り勘」方式とする。車両の乗車定員は運転手を除き 9 名で、乗車人数が増えるほど 1 人あたり料金が安くなり、乗客が 9 名の場合は 1 人あたり 4,167 円となる。便数は、利用状況や市場ニーズを踏まえ、柔軟に対応する予定である。

事業開始の経緯は、既存の広域基幹交通による大量輸送の範囲外にある運行時刻等に関する地域住民の声に株式会社恋路観光バスが耳を傾けたことから始まった。課題解決に向けて国土交通省、石川県、珠洲市等と協議を重ね、既存の広域基幹交通を補完し、地域住民に加え観光客の移動にも対応する相乗りタクシーとしてサービス設計を進めた。設計にあたって、国土交通省 北陸信越運輸局から直接、指導・助言を受けた。

現在の相乗りタクシー制度は、2018 年に東京 23 区等で行われた国土交通省の実証実験を経て、2021 年に制度化され、その後、地方でも導入事例が見られるものの、その数はまだ限定的である。業界では IT 事業者が配車アプリ等を開発し、地方の自動車交通事業者と協働するケースが多い。本事業では、地方の自動車交通事業者が予約受付・集金・旅客運送を一貫して行う。運賃への公的資金の充当を前提とせ

ず、民間企業が自立的に運営するビジネスモデルを構築した。一方、予約システムを含むホームページ構築等の初期費用については、観光庁の補助事業**に採択された。本事業は、令和6年能登半島地震後に事業承継により経営陣が刷新されて以降、スズ交通株式会社にとって初の新事業となる。

珠洲・金沢直行 相乗りタクシーにより、金沢を訪れる観光客の一部を能登方面へ誘導することで、観光客の地域的な分散を促すとともに、地域住民の移動利便性向上と能登半島への人流回復をめざす。また、石川県内における観光客の滞在期間を延ばし、地域経済の回復・発展に寄与したいと考えている。

【本件に関するお問い合わせ先】

相乗りタクシー広報担当 専用電話：0768-84-5076 ／ ホームページ：<https://suzu-koutsu.jp/>

* 国土交通省 北陸信越運輸局への報告状況に基づく（2026年9月時点）

**本取組は、観光庁「オーバーツーリズムの未然防止・抑制をはじめとする観光地の面的受入環境整備促進事業」に採択された事業である。